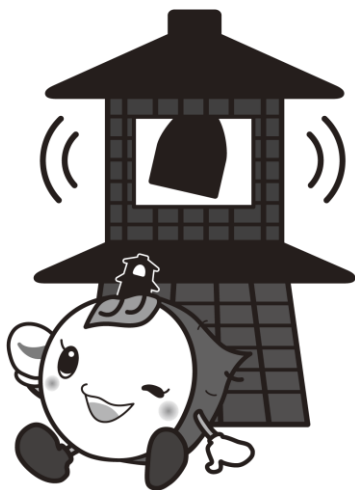


川越市観光アンケート調査

報告書

平成26年度



川越市マスコットキャラクター

ときも

平成27年5月

川 越 市

目 次

1. 平成26年川越市入込観光客数の概要	2
2. 観光アンケート調査の統計・分析	3
2-1. 観光アンケート調査の趣旨	3
2-2. 観光アンケート調査の方法	3
2-3. 観光アンケート調査の結果	5
2-3-1. 出発地	5
2-3-2. 性別	10
2-3-3. 年齢	11
2-3-4. 同行者	11
2-3-5. 交通手段	12
2-3-6. 滞在期間	13
2-3-7. 宿泊観光客	13
2-3-8. 観光時間	15
2-3-9. 来訪回数	15
2-3-10. 認知方法	16
2-3-11. 立ち寄り観光地	17
2-3-12. 交通費	18
2-3-13. 宿泊費	18
2-3-14. 飲食費	19
2-3-15. 入館料・入場料	19
2-3-16. お土産品購入費	20
2-3-17. 要望	21
2-3-18. 意見・感想	22
3. 観光消費額	23

1. 平成26年川越市入込観光客数の概要

平成26年に川越を訪れた観光客数は657万9千人だった（外国人観光客含む）。前年に比べ27万7千人の増加（4.4%増）となった。

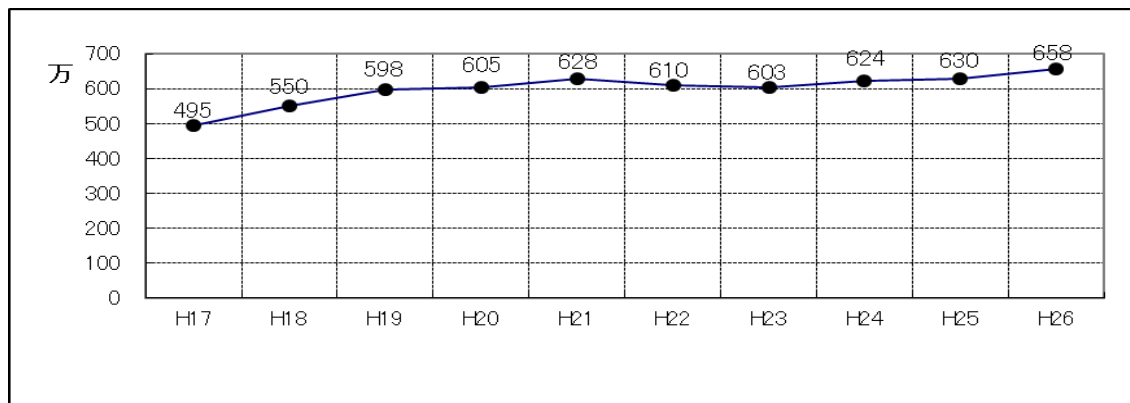
その要因として、川越まつりなどの各種イベントが天候に恵まれ、特に川越まつりが前年比で約41万人増加した影響が大きい。全体としての入込観光客数は増加したが、一方で、まちなかのカウント調査や観光施設の来場者数は微減した。これは、平成26年は、平成25年3月に開通した鉄道5社による相互直通運転も落ち着いたことや、2月に2週にわたって記録的な大雪が降ったことによる影響だと推測される。

川越市立の5館については、市立博物館を除く4館において観光客数が減少した。川越まつり会館では2,786人（前年比で2.7%減）、市立美術館では15,212人（前年比で13.0%減）、川越城本丸御殿では6,270人（前年比で4.4%減）、蔵造り資料館では1,546人（前年比で1.9%減）減少した。

各種行事については、天候に恵まれた小江戸川越春まつりオープニングイベントでは、前年と比べて4千人の増加、フィナーレイベントは、2日目、3日目は雨天だったため、1万1千人の減少であった。川越まつりは、2日間で97万2千人となり、悪天候であった前年の56万2千人よりも約41万人と、大幅に増加した（前年比で73%増）。また、百万灯夏まつりは、約2万人増（前年比で13.8%増）、小江戸川越花火大会は、約3万人の増加（前年比で30%増）であった。川越産業フェスタは、川越産業博覧会から名称を変えてから初めての開催であり、平成25年は台風により中止となったが、平成26年は天候に恵まれ、23,700人の来場者数であった。

※川越市入込観光客数は暦年で調査を実施。

（表1） 過去10年間の川越市入込観光客数



平成26年の外国人入込観光客数は、77,000人と、平成25年に比べ、32,000人の増加（約71.1%増）となった。また、平成24年の46,000人と比較しても、約31,000人の増加であり、平成19年から行っている外国人入込観光客数の調査開始以来、最多の人数であった。

主な要因としては、ビザの大幅緩和、消費税免税制度拡大のほか、アジア地域の経済成長に伴う海外旅行需要の拡大などにより、日本全体の訪日観光客数が増加したことから、外国人観光客数の増加につながった。カウント調査と聞き取り調査による外国人入込観光客数は、すべて前年より増加しており、川越まつりや春まつり等の主要イベントにおいても、外国人の入込観光客数は増加した。

2. 観光アンケート調査の統計・分析

2-1 観光アンケート調査の趣旨

観光アンケート調査は、観光客一人一人に対する聞き取りによるもので、その結果を基に、観光客の出発地、交通手段、立ち寄り観光地、観光消費額など、観光客の基本的な動態を把握することを目的としている。

これまでに、平成 17 年（標本数：9,924 件、調査期間：平成 17 年 1 月～平成 17 年 12 月）、平成 19 年（標本数：7,491 件、調査期間：平成 19 年 1 月～平成 19 年 12 月）、平成 20 年度（標本数：9,341 件、調査期間：平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月）、平成 21 年度（標本数：6,197 件、調査期間：平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月）、平成 22 年度（標本数：6,243 件、調査期間：平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月）、平成 23 年度（標本数：6,283 件、調査期間：平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月）、平成 24 年度（標本数：6,366 件、調査期間：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）、平成 25 年度（標本数：6,370 件、調査期間：平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）と当調査を実施してきた。

当調査の実績に基づき、平成 26 年度も同様の調査を行うことによって、経年の変化を把握するとともに、観光客の特性を分析することによって今後の観光振興策の重要な資料とする。

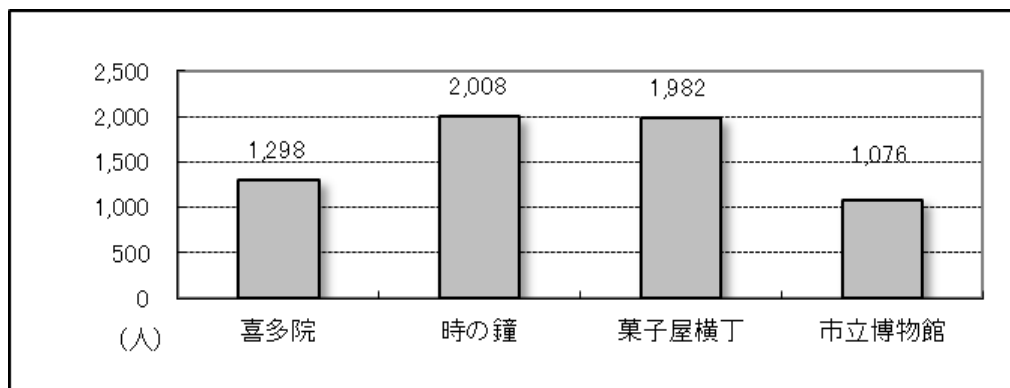
2-2 観光アンケート調査の方法

平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までの 1 年間を調査期間とし、主要観光地点 4 ヶ所において、各地点を訪れる観光客に対し、聞き取りによる計 6,364 件の観光アンケート調査を実施した。

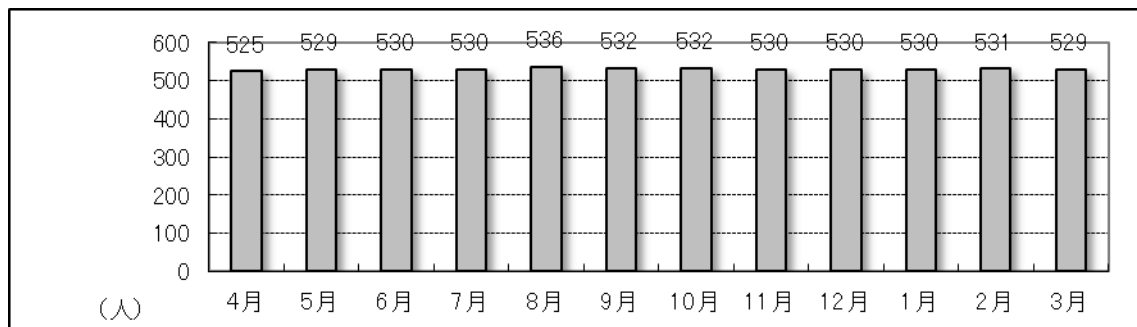
アンケート調査地点および各地点の聞き取り件数は（図 1）のとおりである。

また、（図 2）のとおり、6,364 件のアンケート調査に偏りが出ないように、月毎に調査を実施している。

（図 1） 観光アンケート調査地点と聞き取り件数



(図2) 各月の観光アンケート調査数



※なお、回答結果については、百分率(%)で表示しているものもあるが、小数点第2位で四捨五入しているため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。

(参考) 実際に使用した観光アンケート調査票

(表)

川越市観光アンケート調査票

※調査員の方へ
アンケートの票は、右の地点、年、月、日の欄を最初に数字だけ記入し、問1以降は該当する項目を丸で囲み、その後の欄へ記入してください。右欄が白線の場合は記入しないでください。

問1 お住まい、性別、年齢をお教えください。

(1) 都道府県名 () (海外の方は国名)
※埼玉県・東京都・神奈川県にお住まいの場合は、市区町村名 ()

② ①男性 ②女性

③ ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60歳以上

問2 どなたといらっしゃいましたか。(ひとつだけ)

①ひとり ②夫婦 ③子供連れ家族
④その他家族(両親や兄弟など) ⑤友人知人 ⑥仕事仲間
⑦地域の団体 ⑧学校の団体 ⑨その他

問3 川越までの主な交通手段は何ですか。(ひとつだけ)
※複数の交通手段を利用している場合は、最後に利用した交通手段

①Jバス ②東武線 ③西武線 ④路線バス・タクシー
⑤観光バス ⑥自家用車 ⑦バイク・自転車 ⑧徒歩

問4 川越へ滞在される(された)期間はどのくらいですか。(ひとつだけ)

①日帰り ②1泊 ③2泊 ④3泊 ⑤4泊以上
※川越市内で宿泊した場合は、②～⑤を記入。

問5 (1) 川越での観光時間はどのくらいですか。(ひとつだけ)

①1時間程度 ②2時間程度 ③3時間程度 ④半日
⑤1日 ⑥1日以上

(2) (1)で①～⑤と回答した方にお伺いします。
川越での観光時間は何時から何時まで(予定)ですか?(24時間表記)

()時から()時まで

問6 川越にはこれ何回目のご旅行ですか。(ひとつだけ)

①初めて(1回目) ②2回目 ③3回目 ④4回以上

(裏)

問7 川越をどのようにしてお知りになりましたか。(複数回答可)

①テレビ・ラジオ ②ポスター・パンフレット
③新聞・雑誌 ④旅行会社等のツアー ⑤インターネット
⑥知人などに勧められて ⑦最初から知っていた(地元の方も含む)
⑧その他()

問8 川越市マスコットキャラクター『ときも』をご存知ですか?

①知っている ②知らない

問9 川越のどこを観光されましたか。(複数回答可)

①嵐沢の岡遊び ②時の鐘 ③菓子屋横丁 ④蓮多院 ⑤嵐沢資料館
⑥川越まつり会館 ⑦市立博物館 ⑧市立美術館 ⑨川越城本丸跡
⑩蓮華寺 ⑪永川神社 ⑫成田山川越別院 ⑬小江戸嵐沢
⑭その他()

問10 川越市内において、一人あたりいくらぐらい使われます(ました)か。

(1) 交通費(市内バス、又はタクシー代) 円
※タクシーを複数人利用の場合は、人数で割った額

(2) 宿泊費 円
(3) 飲食費 円
(4) 入館料・入場料 円
(5) お土産品購入費 円

問11 川越に対しての要望についてお聞かせください。(複数回答可)

①交通の安全性の向上 ②駐車場の整備 ③観光スポットの充実
④無料休憩所・トイレの整備 ⑤観光案内板の整備
⑥ポケットパークの充実 ⑦観光パンフレット・ガイドの充実
⑧障害者への配慮 ⑨レンタサイクルの充実
⑩その他()

ご協力ありがとうございました。

また、調査にご協力頂いた観光客に対しては、調査終了後に「千社札シール」を手渡した。

(参考) 千社札シール



2-3 観光アンケート調査の結果

2-3-1 出発地

アンケート回答者総数 6,364 人のうち、国内が出発地の観光客は 6,158 人、国外が
出発地の観光客は 201 人だった（5 人は不明）。

以下、出発地の分析を国内と国外とに分けておこなう。

(1) 国内

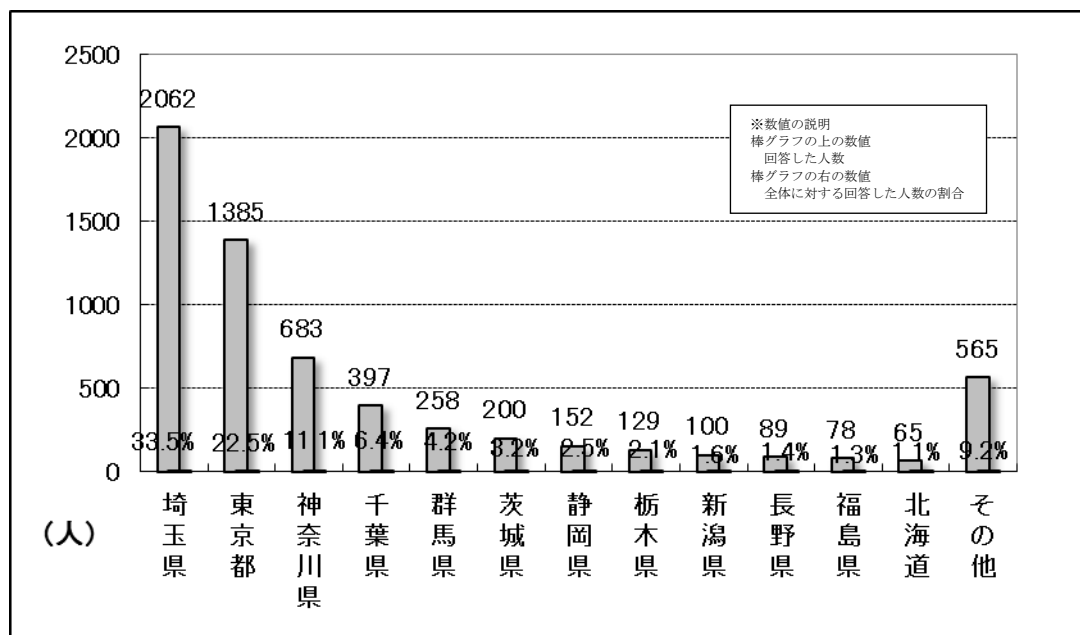
①都道府県別

川越を訪れた観光客の 8 割以上が関東地方の各都県から出発していた（図 3）。特に、
県内市町村および東京都を出発地とする観光客の割合が 56%であり、全体の過半数を
占める結果となった。これは、都心から 1 時間以内で訪れることのできる立地特性が
要因となっているものと考えられる。

また、県内市町村および東京都以外を出発地とする観光客の割合は 44%であり、前
年度より 0.1 ポイント減少と、前年とほぼ同様の結果となった。神奈川県からの観光客
数が平成 25 年度（749 人、12.1%）から、平成 26 年度（683 人、11.1%）と 1.0 ポイ
ント減少した。これは、平成 25 年 3 月 16 日から横浜と川越を結ぶ、みなとみらい線・
東急東横線・東京メトロ副都心線・西武池袋線・東武東上線の鉄道五社による相互直
通運転直後の効果が落ち着いたことが要因とみられる。

関東地方の各都県以外では、静岡県（152 人・2.5%）、新潟県（100 人・1.6%）、
長野県（89 人・1.4%）から出発した観光客が上位の結果となった。全国の各都道府県
別出発地は表 2 のとおりである。

（図 3） 出発地



(表 2) 都道府県別出発地

地方	件数	都道府県別（上位順に表記）※カッコ内は人数
関東	5, 179人	埼玉県(2,062), 東京都(1,385), 神奈川県(683), 千葉県(397), 群馬県(258), 茨城県(200), 栃木県(129), 山梨県(65)
東北	252人	福島県(78), 宮城県(53), 山形県(44), 青森県(26), 岩手県(30), 秋田県(21)
東海	221人	静岡県(152), 愛知県(47), 三重県(9), 岐阜県(13)
北陸・信越	210人	長野県(89), 新潟県(100), 富山県(11), 福井県(2), 石川県(8)
近畿	102人	大阪府(33), 兵庫県(32), 京都府(19), 奈良県(7), 滋賀県(10), 和歌山県(1)
九州・沖縄	71人	福岡県(27), 熊本県(5), 沖縄県(4), 長崎県(7), 大分県(5), 鹿児島県(11), 宮崎県(8), 佐賀県(4)
北海道	65人	北海道(65)
中国	44人	広島県(19), 岡山県(14), 山口県(6), 島根県(3), 鳥取県(2)
四国	14人	香川県(6), 高知県(4), 徳島県(1), 愛媛県(3),
計	6, 158人	

※各都道府県の地方区分は、郵便事業株式会社発行の郵便番号簿の地方区分に従った。

②市区町村別（埼玉県、東京都、神奈川県）

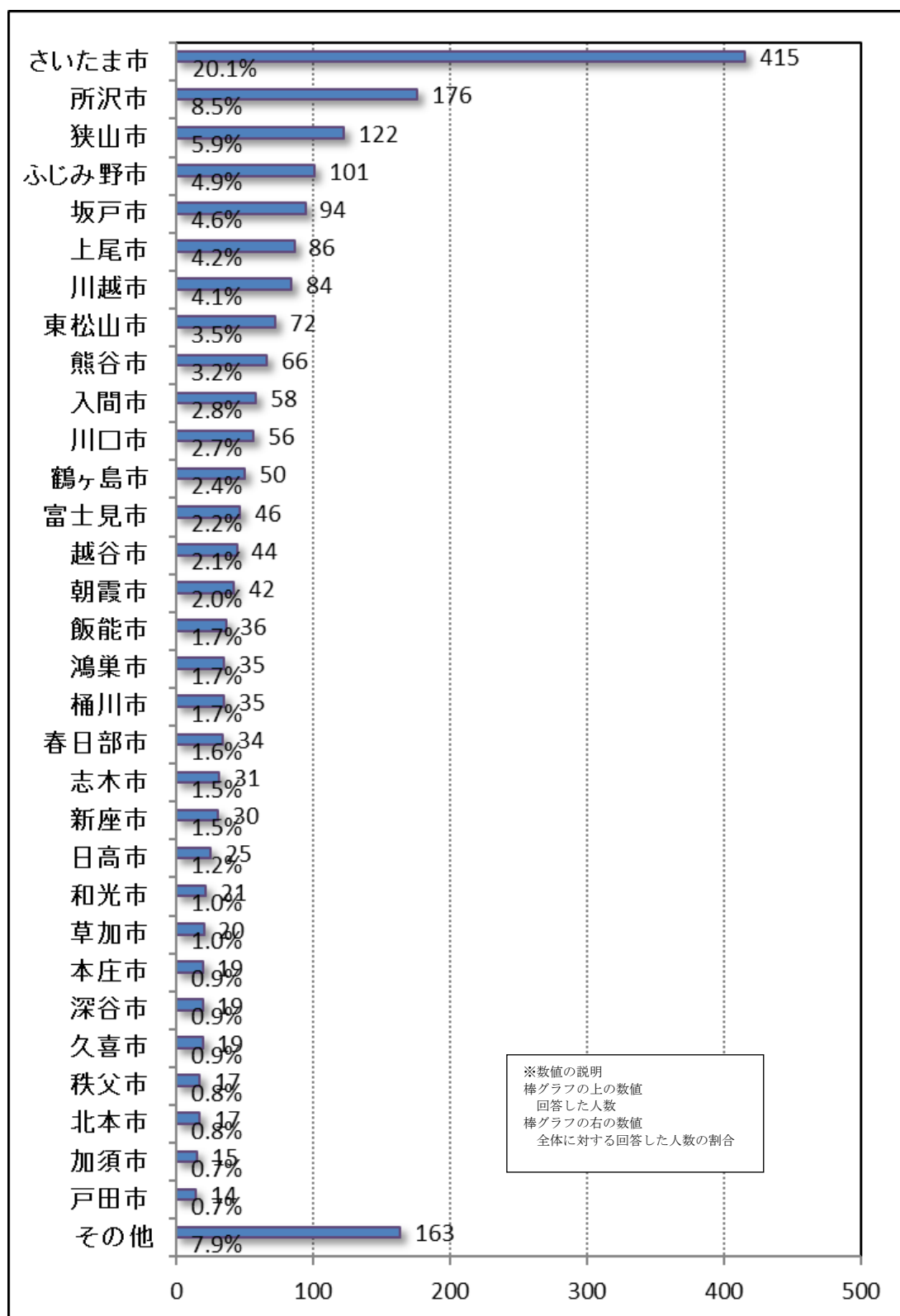
上位3位を占めた埼玉県、東京都、神奈川県の観光客について、市区町村別出発地は、図4（埼玉県）、図5（東京都）、図6（神奈川県）のとおりとなった。

（ア）埼玉県

埼玉県内の出発地で最も多かったのはさいたま市であり、全体の20.1%を占め、前年よりも0.9ポイント減少した（平成25年度：21.0%）。距離の近さ、人口の多さ（1,255,743人、平成26年4月1日現在）、および、JR川越線、国道16号などによる交通アクセスの利便性の良さなどが最上位になった要因と考えられる。

その次に多かったのは、所沢市の8.5%であった。続いて第3位は狭山市（5.9%）、第4位はふじみ野市（4.9%）、第5位は坂戸市（4.6%）という結果だった。

(図 4) 埼玉県の市町村別出発地

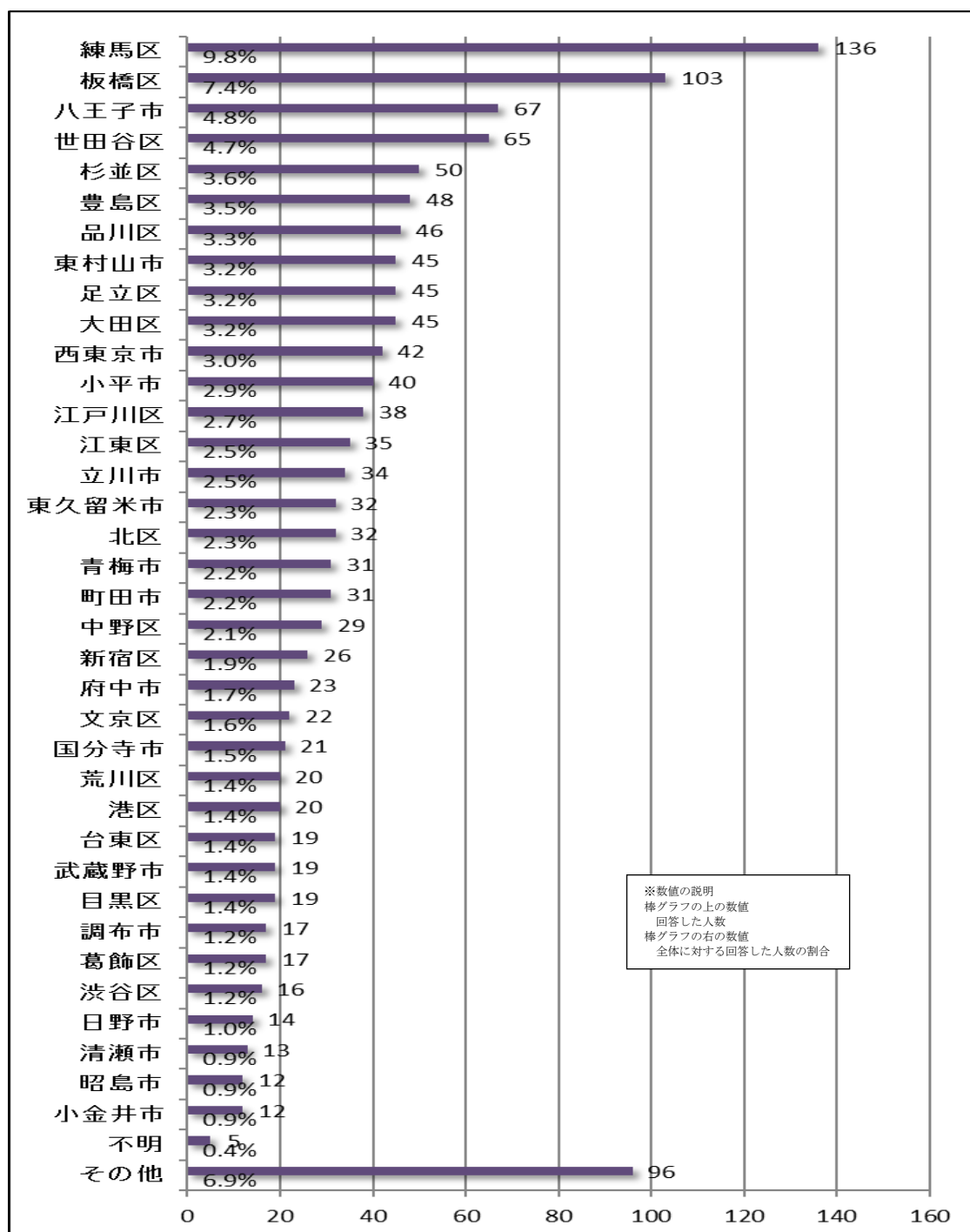


(イ) 東京都

東京都内の出発地で最も多かったのは練馬区であり、全体の9.8%を占めた。練馬区が第1位となった要因としては、人口の多さ（712,407人、平成26年4月1日現在）や、西武新宿線、東武東上線、川越街道（国道254号）、関越自動車道（練馬IC～川越IC）など交通の利便性が高いことが考えられる。

第2位は板橋区の7.4%で、続いて第3位は八王子市（4.8%）、第4位は世田谷区（4.7%）、第5位は杉並区（3.6%）という結果だった。

(図5) 東京都の市区町村別出発地

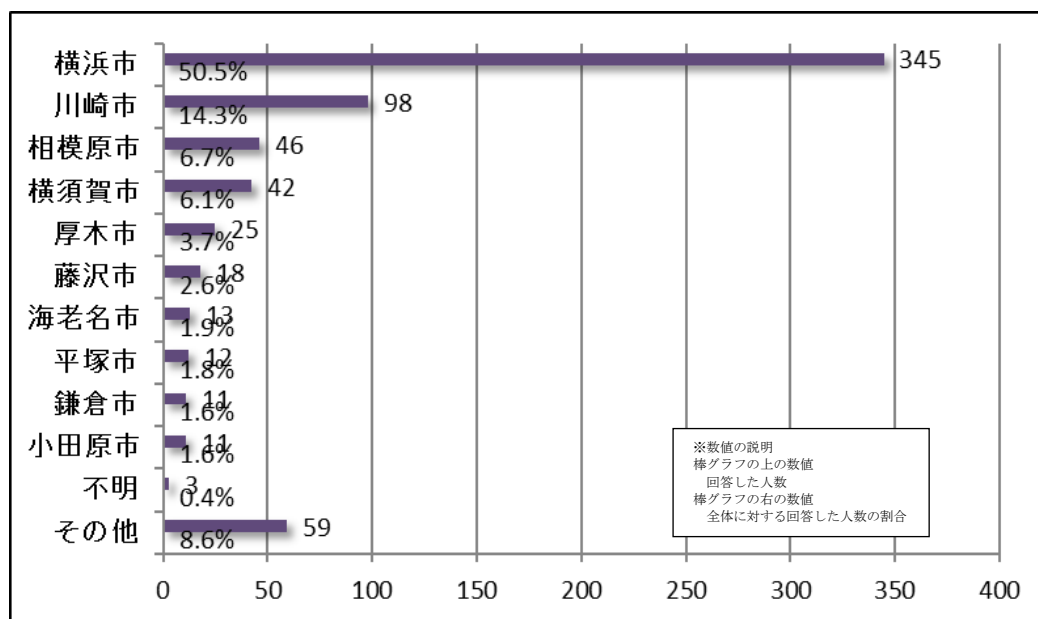


(ウ) 神奈川県

神奈川県内の出発地で最も多かったのは横浜市であり、全体の 50.5%を占めた。横浜市が第 1 位となった要因としては、人口の多さ（3,702,0937 人、平成 26 年 4 月 1 日現在）や、鉄道 5 社相互直通運転が平成 25 年 3 月 16 日に開始したことにより交通の利便性が増したこと、相互直通運転に関連して川崎市が新聞・テレビ等で報道されたことが考えられる。

第 2 位は川崎市の 14.3%で、続いて第 3 位は相模原市（6.7%）という結果であった。

（図 6）神奈川県の市町村別出発地



(2) 国外

国外から出発した観光客は 201 人、3.2%で平成 25 年度の 197 人、3.1%から 0.1 ポイント増加した。国別では台湾（87 人）、アメリカ合衆国（22 人）、香港（15 人）、オーストラリア（13 人）、中国（12 人）、タイ（12 人）が上位となった。（表 3）

川越市内の各案内所（川越駅観光案内所、本川越駅観光案内所、仲町観光案内所）の統計による平成 26 年の外国人観光客利用者数の上位国は、国別では 1 位が台湾、2 位が中国（香港含む）、3 位がタイ、4 位が韓国、5 位が米国、6 位がシンガポール、7 位が豪州、8 位がフランス、9 位がマレーシア、10 位が英国であった。上位 4 か国を東アジアからの旅行者が占める結果となった。

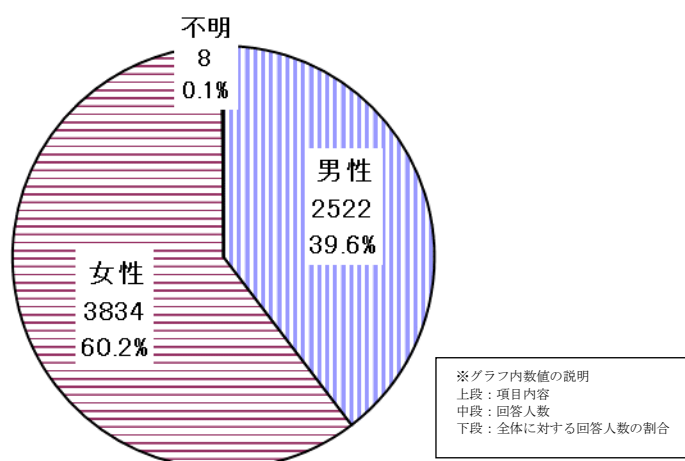
(表 3) 国別出発地

国 名	回答者数
台湾	87人
アメリカ合衆国	22人
香港	15人
オーストラリア	13人
中国	12人
タイ	12人
韓国	11人
シンガポール、マレーシア、カナダ	各3人
フランス、ブラジル、イギリス、イタリア、スペイン	各2人
モロッコ、ベルギー、フィリピン、トルコ、ドイツ、チェコ、スウェーデン、カンボジア、オランダ、アイルランド	各1人
計	201人

2-3-2 性別

性別は、平成25年度の調査同様、女性が男性を上回っており、女性が60.2%、男性が39.6%という結果となった。（図7）

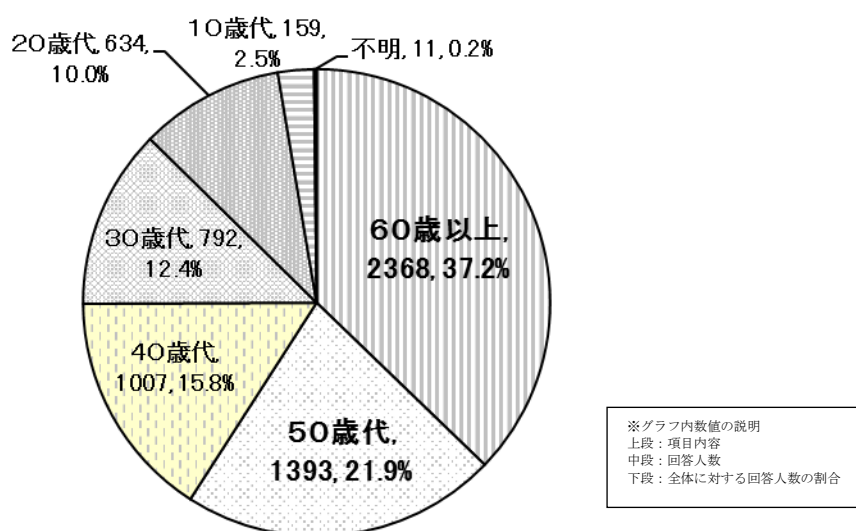
(図 7) 性別



2－3－3 年齢

年齢の上昇に比例して、観光客割合も上昇した。（図 8）
50 歳代以上の中高年層が過半数の 59.1%という結果だった。

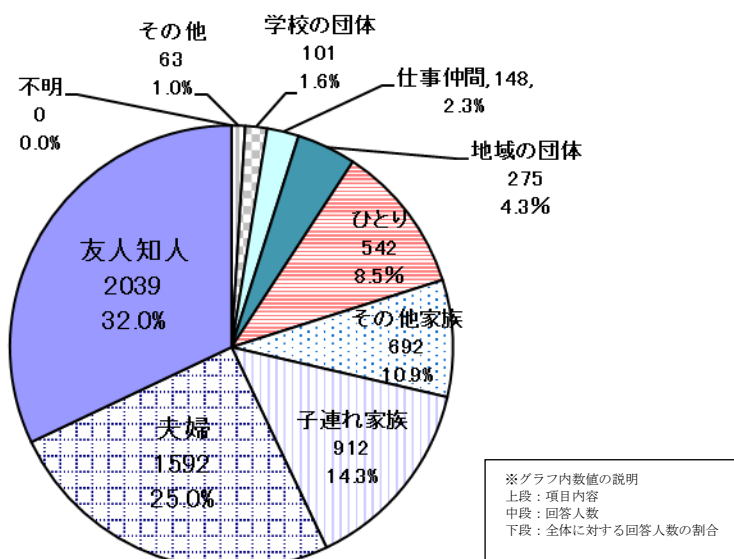
（図 8） 年齢



2－3－4 同行者

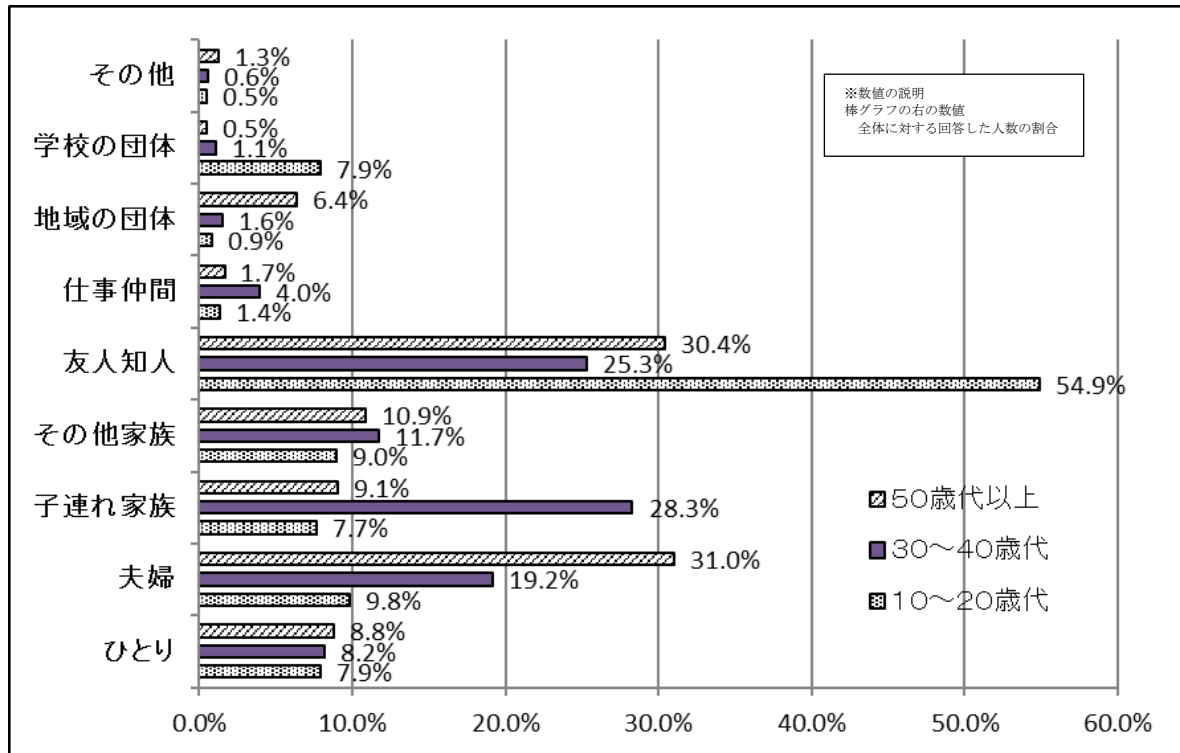
友人知人で川越を訪れる観光客が最も多かった（32.0%）。夫婦（25.0%）、子連れ家族（14.3%）やその他家族（10.9%）を含めると、家族で川越を訪れる観光客は 50.2%と約半数を占める結果となった。（図 9）

（図 9） 同行者



また、世代別（10～20 歳代、30～40 歳代、50 歳代以上）の同行者を調べたところ、10～20 歳代では友人知人（54.9％）の割合が最も多く、30～40 歳代では子連れ家族（28.3％）の割合が最も多かった。50 歳代以上では夫婦（31.0％）の割合が最も多かった。（図 10）

（図 10）

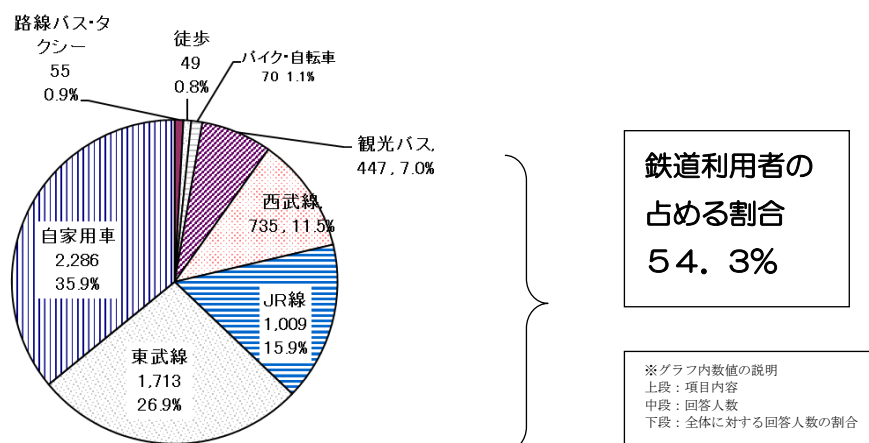


2－3－5 交通手段

川越に乗り入れている鉄道 3 社の利用率を合計すると約半数（54.3％）になり、平成 25 年度の利用率（54.9％）より 0.6 ポイント減少した。

また、自家用車の利用率（35.9％）は前年に比べてポイント 0.6 ポイント減少した（平成 25 年度は 36.5％）。（図 11）

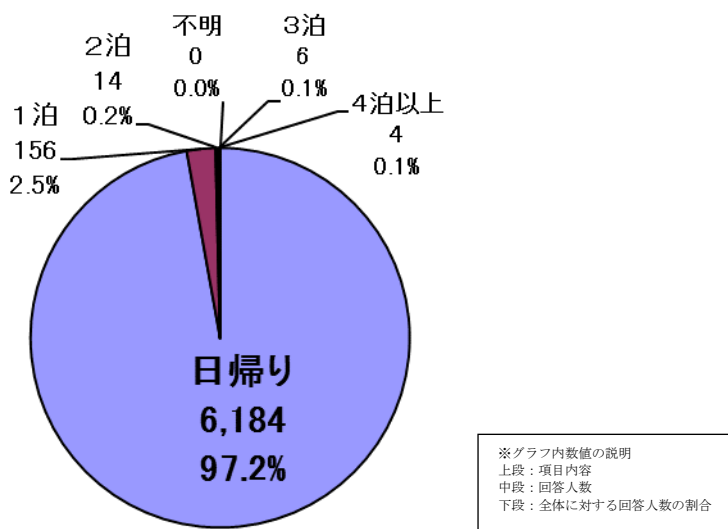
（図 11） 交通手段



2－3－6 滞在期間

川越市内の滞在期間は日帰りが 97.2%と、大半を占めた。平成 25 年度（日帰りが 97.0%）より 0.2 ポイント増加した。（図 12）

（図 12） 滞在期間



2－3－7 宿泊観光客

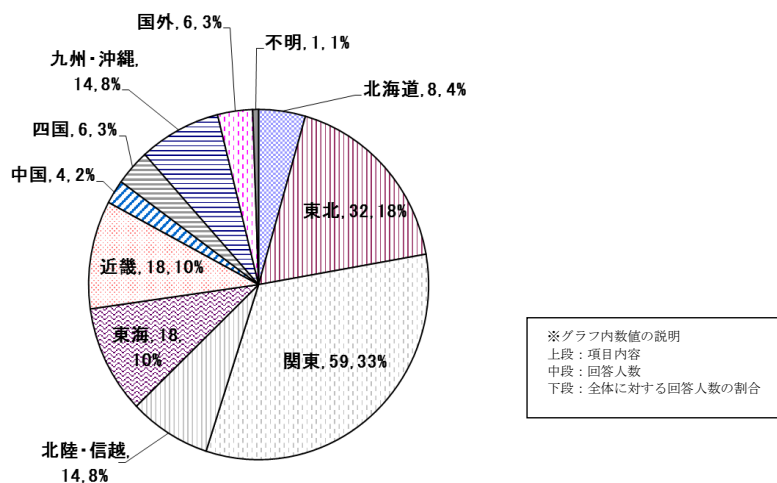
川越市内の宿泊を伴う宿泊観光客の割合は、2.8%（180 人）だった。そのうち国外が出発地の観光客は 6 人だった。

国内の出発地の地方別内訳は(図 13)、都道府県別内訳は(図 14)のとおりである。

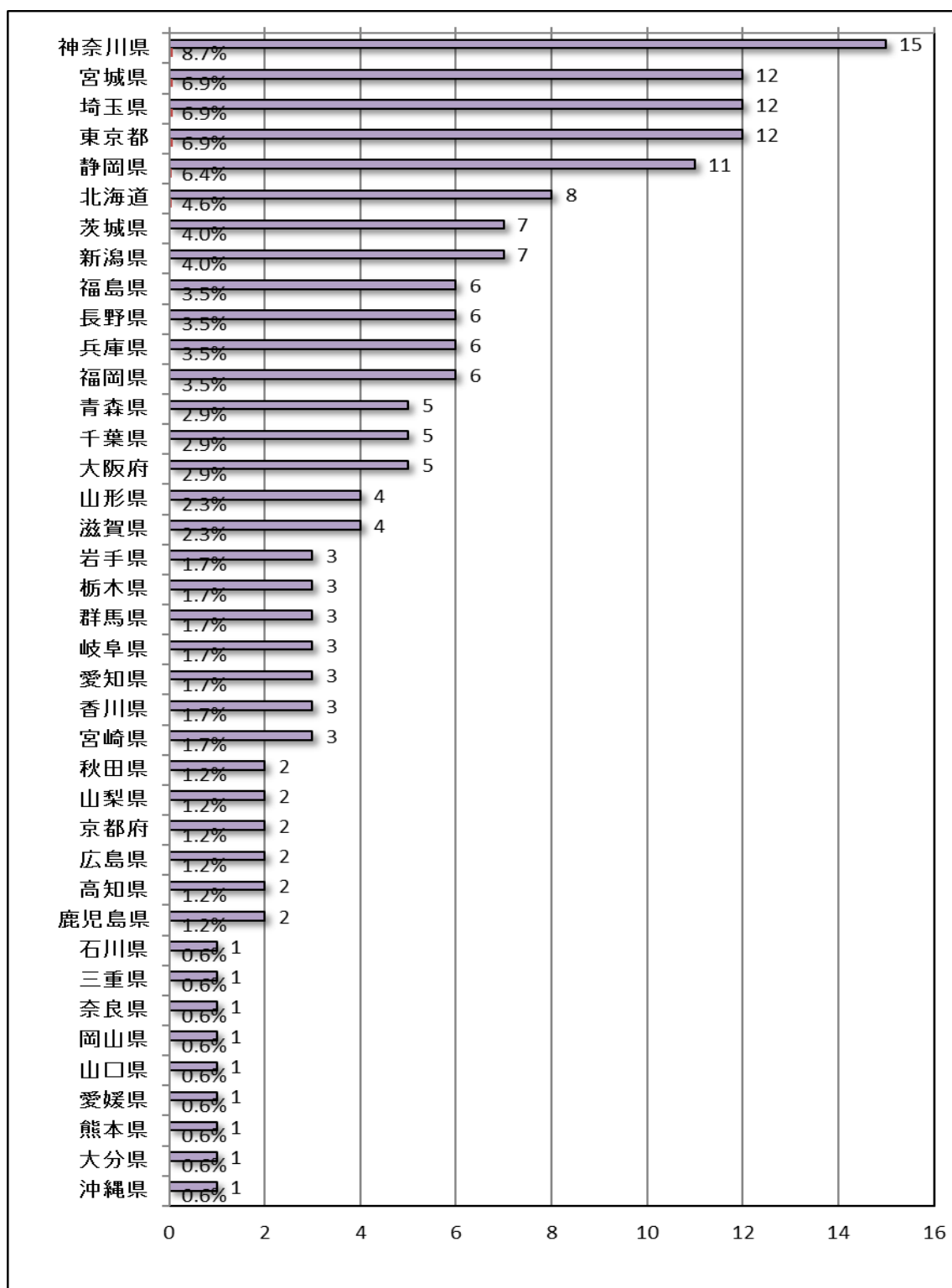
都道府県別では、神奈川県が最も多く（15 人、8.7%）、次点は宮城県（12 人、6.9%）だった。第 3 位は東京都（12 人、6.9%）だった。

国外の出発地は、アメリカ合衆国が 3 人、カナダ、タイ、オーストラリアが各 1 人だった。

（図 13） 宿泊観光客の地方別出発



(図 14) 宿泊観光客の都道府県別出発地



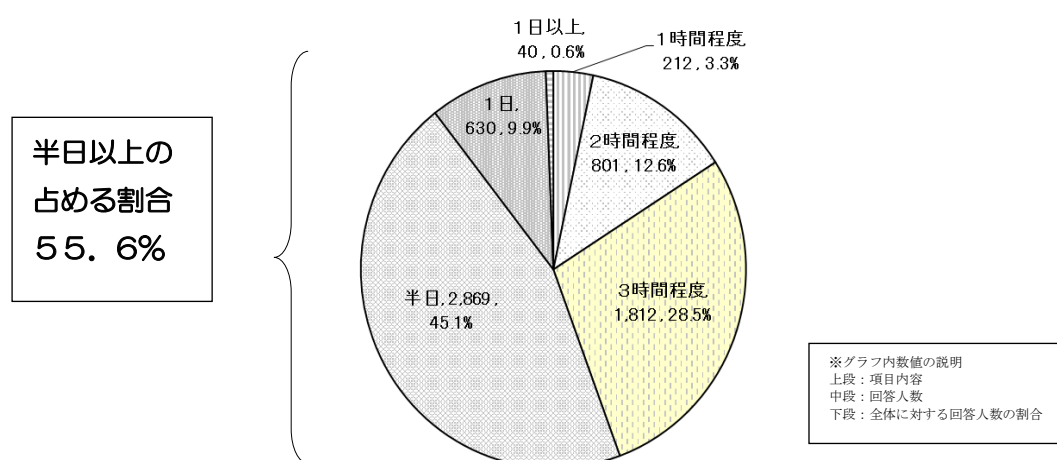
※数値の説明
 棒グラフの上の数値
 回答した人数
 棒グラフの右の数値
 全体に対する回答した人数の

2－3－8 観光時間

川越は日帰り観光が主力となっていることから、観光時間が 3 時間程度から半日の観光客が大半を占めた。(図 15)

平成 22 年度以降の観光アンケート調査と比較すると、観光時間が 1～3 時間程度の観光客率の推移は 51.2% (平成 22 年度) →44.9% (平成 23 年度) →44.1% (平成 24 年度) →44.5% (平成 25 年度) →44.4% (平成 26 年度) となっており、半日以上の観光客率の推移は 48.5% (平成 22 年度) →55.1% (平成 23 年度) →55.9% (平成 24 年度) →55.5% (平成 25 年度) →55.6% (平成 26 年度) となっており、滞在時間について微増した。

(図 15) 観光時間

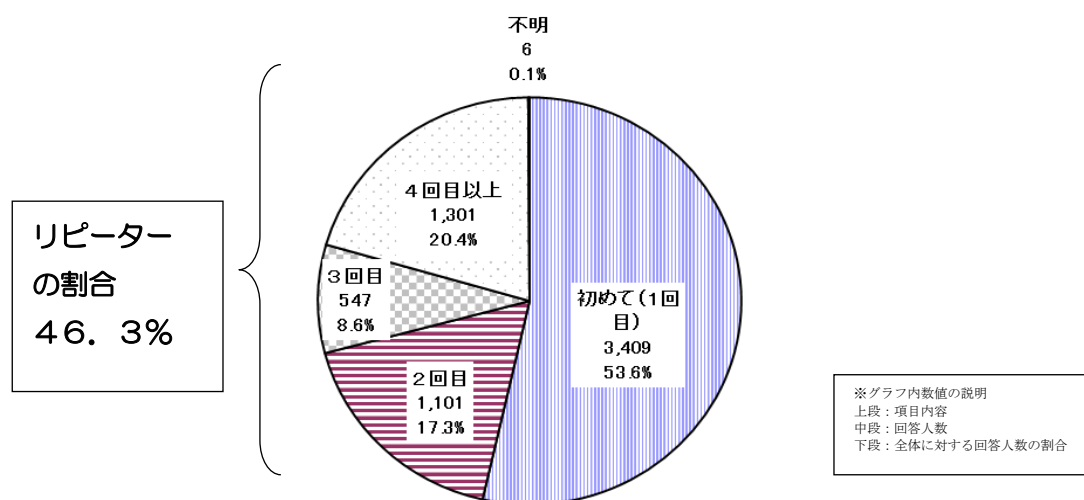


2－3－9 来訪回数

川越を「初めて」訪れた観光客は 53.6%で、平成 25 年度の 51.8%から 1.8 ポイント増加した。2 回以上訪れている「リピーター」は 46.3%だった。(図 16)

リピーターの中でも 4 回以上訪れているリピーターが多くを占めた (20.4%)。

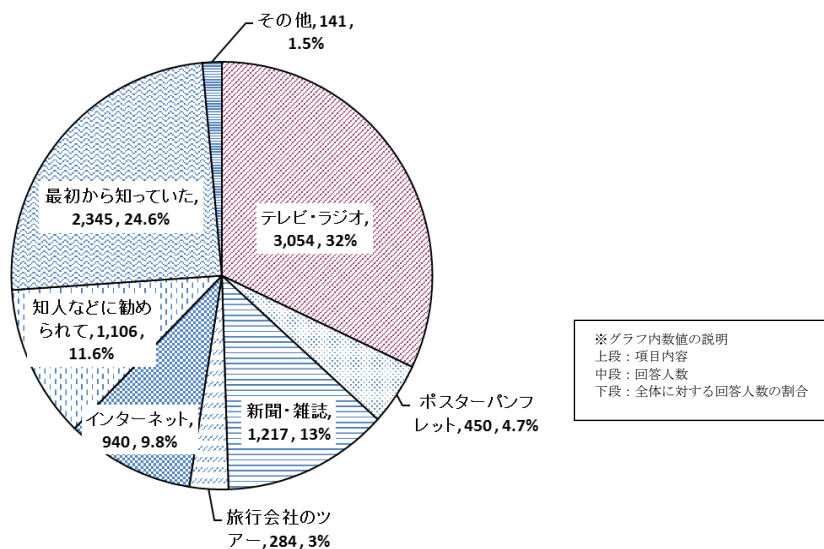
(図 16) 来訪回数



2-3-10 認知方法

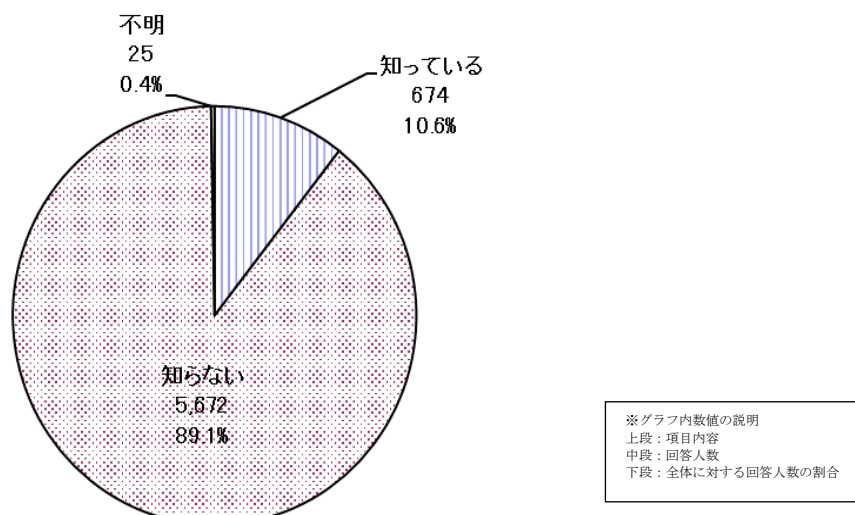
川越を知った方法は、「テレビ・ラジオ」が 32%と最も多く、平成 25 年度の 35% から 3 ポイント減少した。「最初から知っていた（地元の人を含む）」は、平成 26 年度は 24.6%で、地元の方（川越市）を除くと 2,262 人となり、23.7%という結果となった。また、「新聞・雑誌」については 13%であり、平成 25 年の 5%と比べると 8%の増加となり、最も増加率が高かった。（図 17）

（図 17） 認知方法



また、川越の認知方法とあわせて、川越市マスコットキャラクター「ときも」（川越市のマスコットキャラクターで、平成 22 年 3 月に誕生した。時の鐘とサツマイモをモチーフにしたキャラクター。表紙参照。）の認知度についても調査を行った。「ときも」を知っていると答えた人は全体の 10.6%で平成 25 年度の 9.2%から 1.4 ポイント増加した。（図 18）

（図 18） 「ときも認知度」

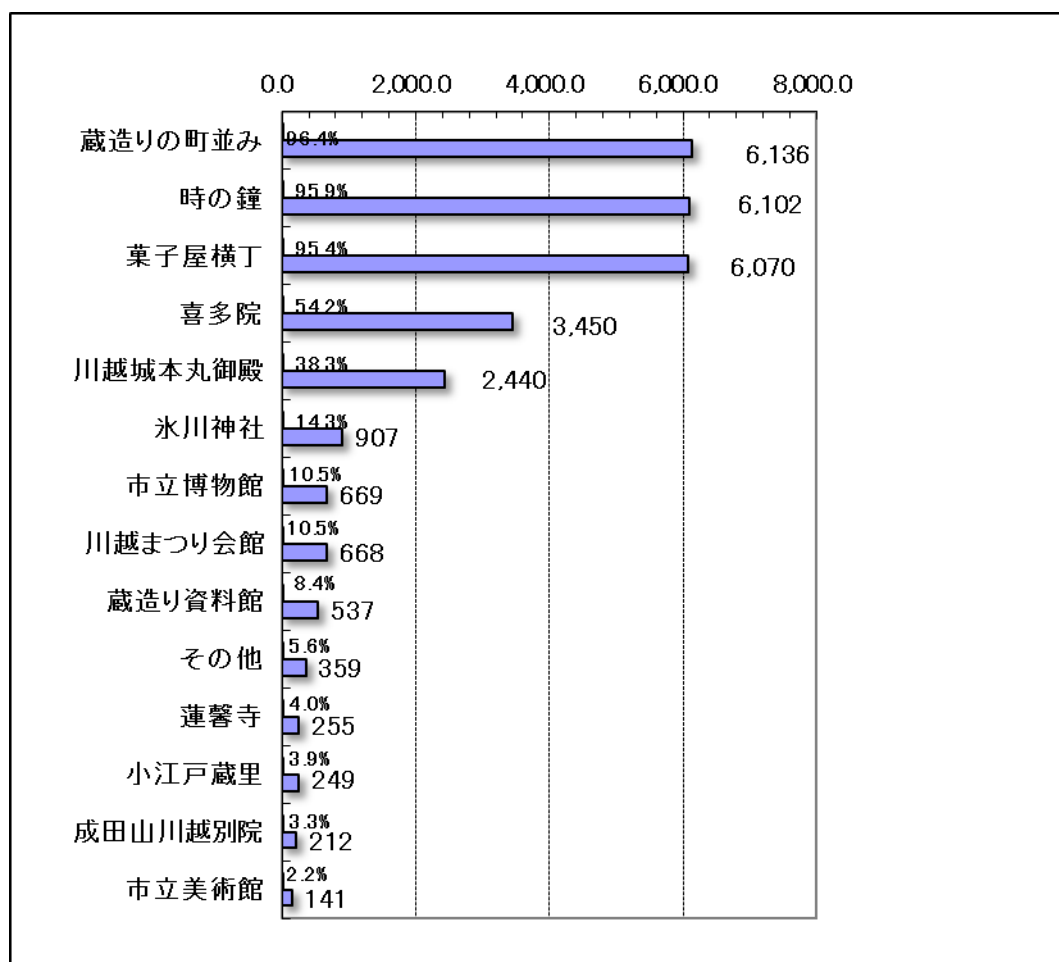


2-3-11 立ち寄り観光地

立ち寄り観光地について調査を行ったところ、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁は9割以上の観光客が訪れていた。平成26年は蔵造りの町並み96.4%、時の鐘95.9%、菓子屋横丁95.4%であり、いずれも増加した。（図19）その次に多かったのは喜多院で54.2%の観光客が訪れていた。第5位は川越城本丸御殿（38.3%）だった。また、氷川神社が平成25年度の9.5%から14.3%と増加した。これは、平成26年7月4日から8月31日まで開催された、「川越氷川神社縁むすび風鈴」という新規のイベントが観光客数増加の要因と推測される。

また、観光客一人につき、平成26年は平均4.4箇所の観光地を訪れており、平成25年度の4.3箇所と比べて増加した。

（図19） 立ち寄り観光地



※数値の説明
 棒グラフの上の数値
 回答した人数
 棒グラフの右の数値
 全体に対する回答した人数の割合

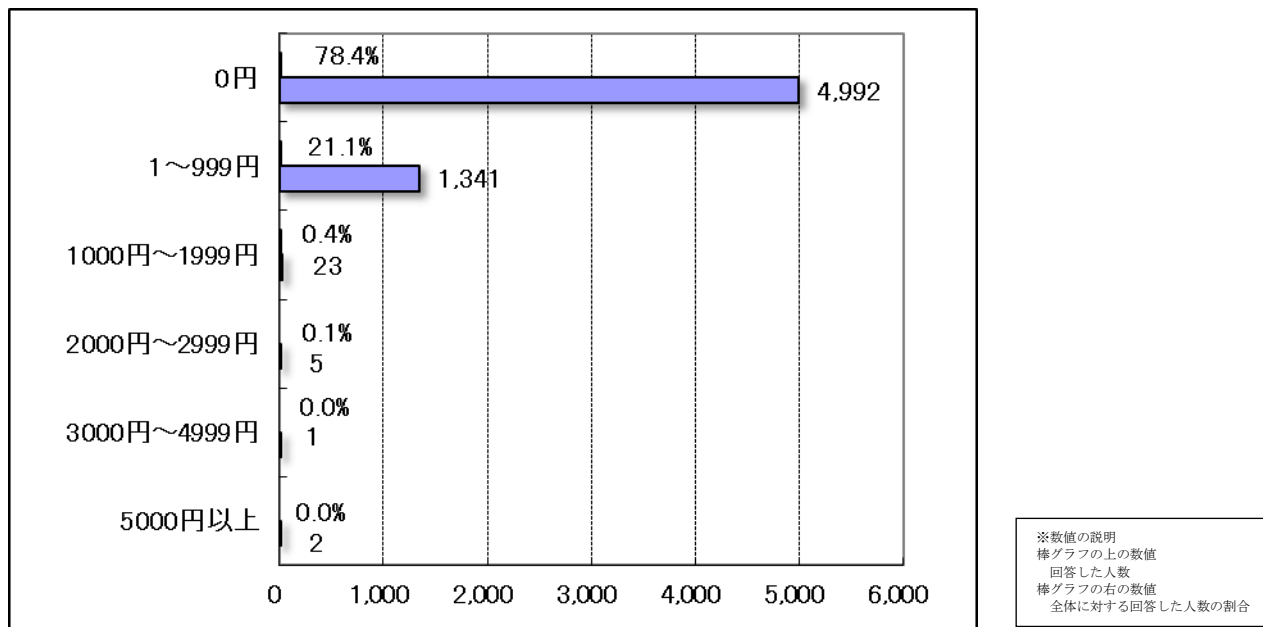
※回答者1人につき、複数回答あり

※割合(%)は、それぞれの項目を回答した人数を、回答者総数(6,364人)で割ったもの

2-3-12 交通費

観光客の市内における交通費支出は、「支出なし」が 78.4%と大半を占めており、平成 25 年度の 76.7%から 1.7 ポイント増加した。「支出する」割合はおよそ 21.6%であり、そのほとんどは 1,000 円未満の支出だった。また、一人あたりの平均交通費は 387 円であり、平成 25 年度の 437 円よりも 50 円減少した。（図 20）

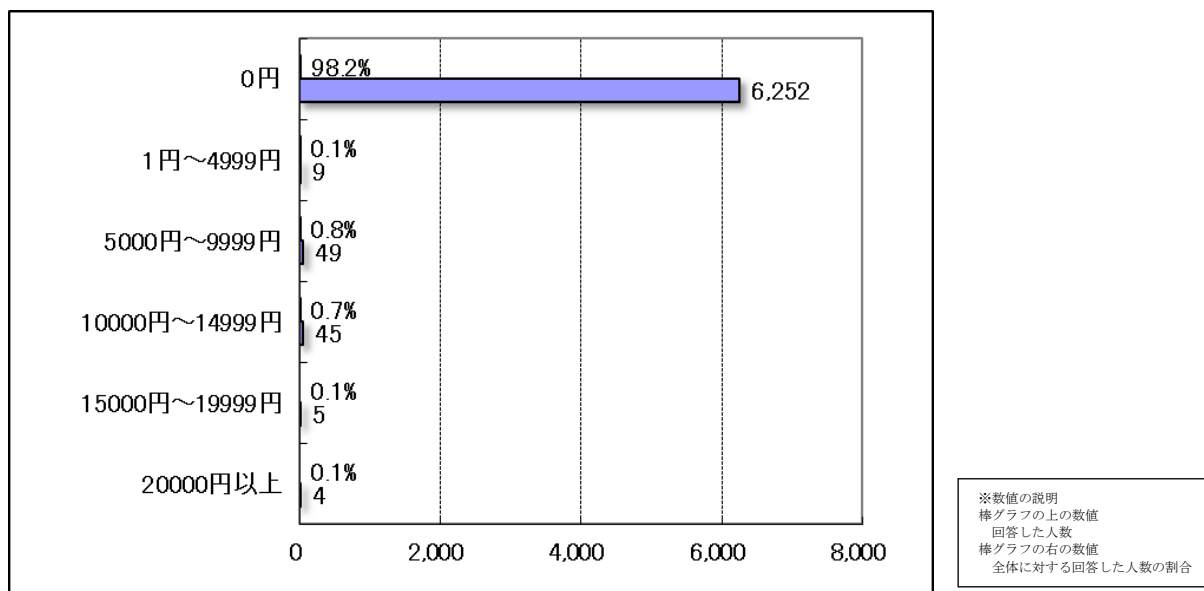
（図 20） 交通費



2-3-13 宿泊費

宿泊費を支出しない観光客の割合は全体の 98.2%で、前年度と同じ割合であった。（平成 25 年度：98.2%）。また、宿泊費を支出する観光客一人あたりの平均宿泊費は 9,170 円で、平成 25 年度の 9,698 円よりも 528 円減少した。（図 21）

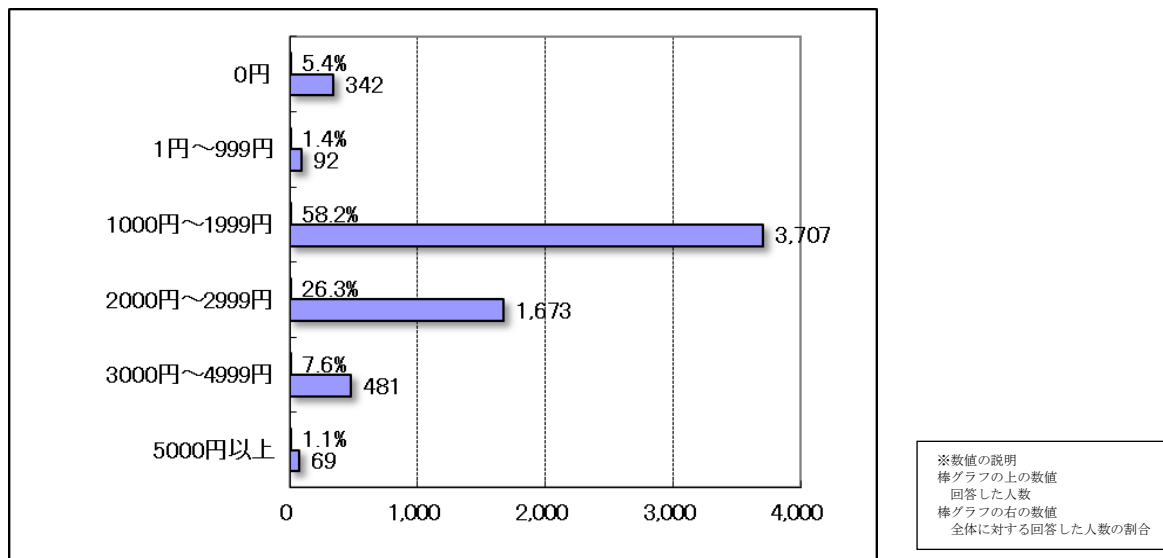
（図 21） 宿泊費



2-3-14 飲食費

市内における飲食費は「支出なし」が 5.4%であり、平成 25 年度の 6.9%と比較して、1.5 ポイント減少した。飲食費は 1,000 円台が最も多く、一人あたりの平均飲食費は 1,672 円で、平成 25 年度の 1,623 円より 49 円増加した。（図 22）

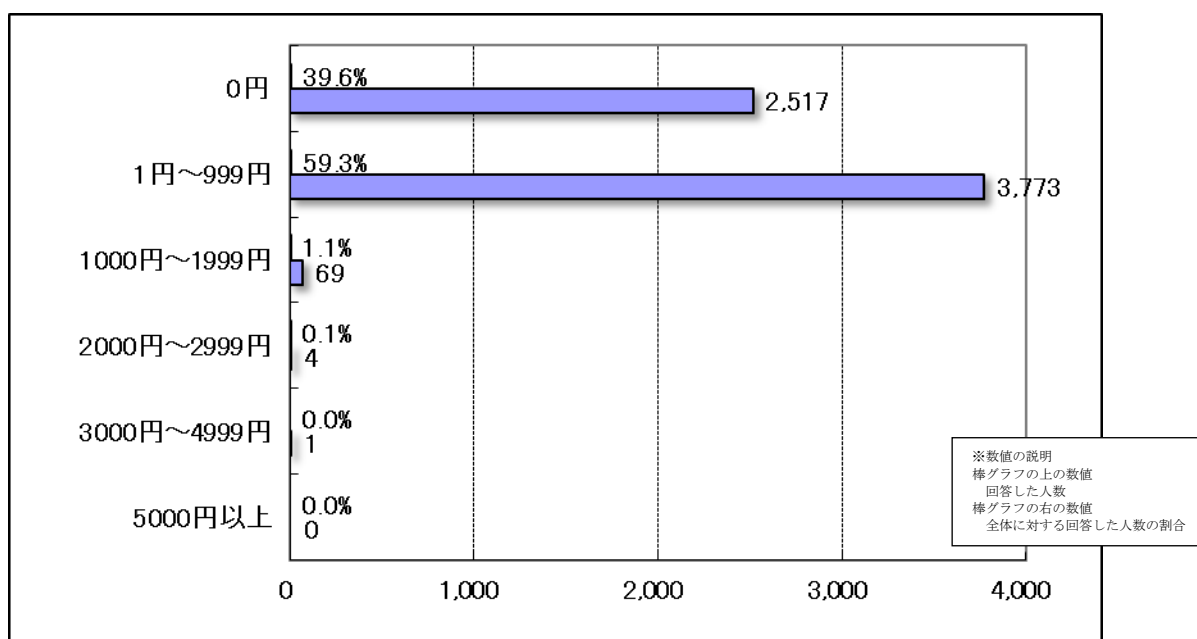
（図 22） 飲食費



2-3-15 入館料・入場料

市内における入館料・入場料は「支出なし」が 39.6%であり、平成 25 年度の 41.9%と比較して、2.3 ポイント増加した。入館料・入場料の支出は 1,000 円未満が最も多く、一人あたりの平均入館料・入場料は 406 円で、前年度の 392 円よりも 14 円増加した。（図 23）

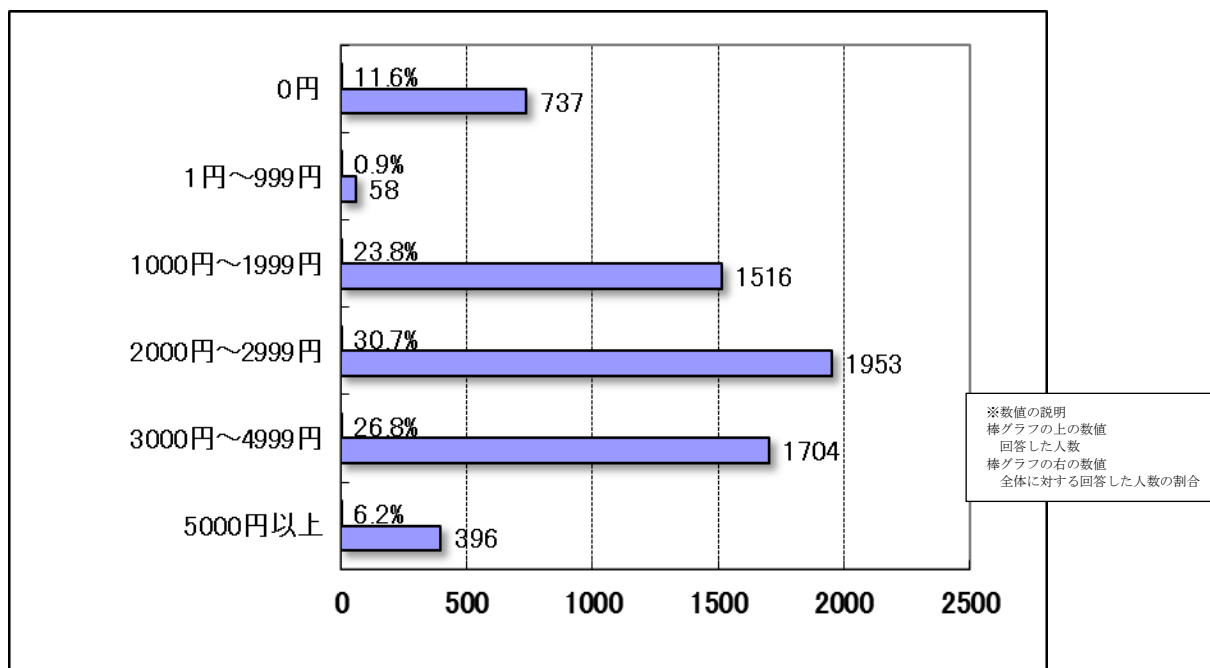
（図 23） 入館料・入場料



2-3-16 お土産品購入費

市内におけるお土産品購入費は、「支出なし」が 11.6%であり、前年度の 12.9%に比べて 1.3 ポイント増加した。お土産購入費は、2,000 円以上、3,000 円未満が最も多く、1 人あたりの平均購入額は 2,368 円で、前年度の 2,314 円と比較して 54 円増加した。（図 24）

（図 24） お土産品購入費

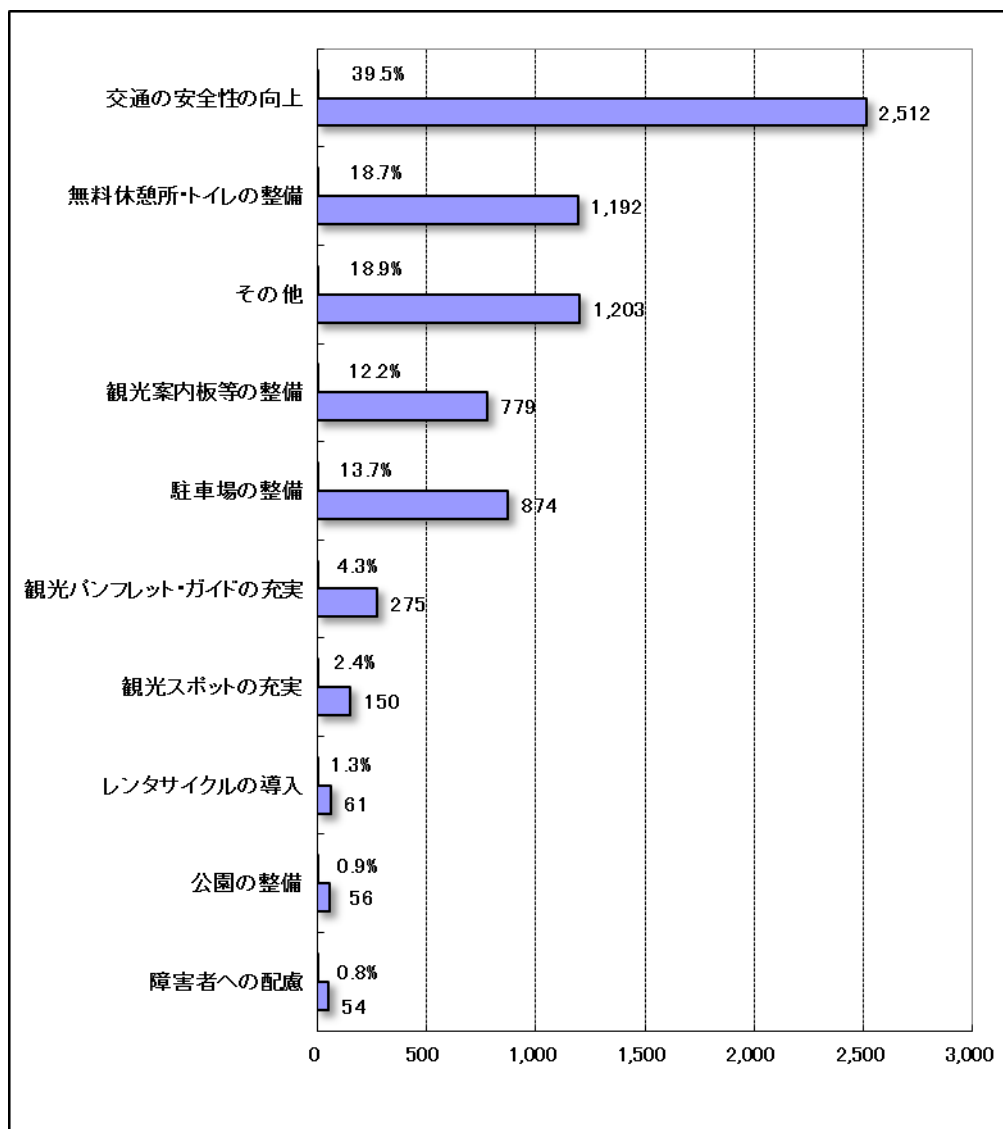


2-3-17 要望

「交通の安全性の向上」（39.5%）が要望として最も多いが、平成 25 年度 41.5%と比べて 2.0 ポイント減少した。（平成 24 年度は 40.4%）。（図 25）

次点は、「無料休憩所・トイレの整備」（18.7%）で、3 番目に「その他」（18.9%）でという結果であった。

（図 25） 要望



※回答者 1 人につき、複数回答あり。（%）は回答者総数（6,364 人）に対する割合である。

2-3-18 意見・感想

川越に対する具体的な意見・感想については、主に下記のような意見があった。中でも一番街の交通安全対策や歩行者天国の実施を求める声が多く、多くの観光客が、道幅が狭く交通量の多い一番街に危険を感じていることが窺えた。その他の意見としては、観光案内板や休憩施設の整備などを求める意見があった。また、子供が遊べる場所や授乳できる場所の表示など、子連れ家族に対する配慮を求める声もあった。トイレについて、去年は清潔化を求める意見・要望が多かったのに対し、今年はトイレが綺麗である等の声も多かった。（表 4）

（表 4）川越に対する主な意見・感想

- ・テレビでよく放映されているので来てみた。
- ・レンタサイクルが大変便利。
- ・案内板を増やしてほしい。
- ・案内板が小さい、もっと見やすく大きめにしてほしい。
- ・案内所の位置が分かりづらい。
- ・喜多院から蔵の街への分かりやすい案内板が必要。
- ・歩道と車道の区別がつかない。
- ・歩道が狭く、ベビーカーを押すのが難しい。
- ・土日だけでも歩行者天国にしてほしい。
- ・車椅子の貸し出し案内が少ない。
- ・駐輪場の場所が分かりづらい。
- ・駐車場を無料にしてほしい。
- ・土日は市役所の駐車場を無料で利用できるようにしてほしい。
- ・トイレの設置数を増やしてほしい。
- ・トイレが綺麗。
- ・ベンチが少ない。
- ・日差しを避ける場所が欲しい。
- ・無料休憩施設の充実。
- ・飲料水用の水道を設置してほしい
- ・バス停の場所が分かりづらい。
- ・ゴミ捨て場が少ない。
- ・パンフレットの設置場所を増やしてほしい。
- ・車いすで入れるお店が少なかった。
- ・コインロッカーが少ない。
- ・案内や受付の人がとても親切だった。
- ・おいしいうなぎを食べに来た。
- ・観光ガイドを常駐させてほしい。
- ・来る度に進化している。
- ・この町並みを維持してほしい。

3. 観光消費額

観光する際に一般的に消費する「交通費」、「宿泊費」、「飲食費」、「入館料・入場料」、「お土産品購入費」の5項目それぞれの平均消費額を調査し、これを基に、観光客一人あたりの平均消費額や川越にもたらされる全体の消費額、さらには、平成25年度と比較してどの程度の変化が見られたかを分析した。

平成26年の入込観光客数は657万9千人だったが、家族単位で訪れる時などは全員が消費活動を行うわけではないので、平成17年からの調査同様に、今回の調査結果からも家族単位で川越を訪れている観光客が多かったため(11ページ、図9参照)、実際に消費活動を行う人数を入込観光客数657万9千人の約40%の263万人と仮定し(平成25年度は630万2千人の約40%である252万人を用いた)、この数値から消費活動率などを踏まえて、川越にどの程度の消費がもたらされたかを試算した。

(表5) 消費項目別の観光客平均消費額

項目	消費活動率	平均消費額	消費活動人数	消費総額
交通費	21.6%	¥387	568,080	¥219,846,960
宿泊費	1.8%	¥9,170	47,340	¥434,107,800
飲食費	94.6%	¥1,672	2,487,980	¥4,159,902,560
入館料・入場料	60.4%	¥406	1,588,520	¥644,939,120
お土産品費	88.4%	¥2,368	2,324,920	¥5,505,410,560
合計				¥10,964,207,000

※①消費活動率…アンケート回答者総数(6,364人)に対する、各項目で「支出あり」と回答した観光客の割合。

※②平均消費額…各項目において、観光客1人当たりが消費する平均金額。

※③消費活動人数…各々の項目で消費活動を行う人数。消費活動を行う対象となる観光客数263万人に各々の消費活動率を乗じたもの。

※④消費総額…各々の項目で消費される総額。平均消費額に消費活動人数を乗じたもの。

消費総額で最も高かったのは、お土産品購入費の約55億500万円で、最も低かったのは交通費の約2億1900万円だった。また、平均消費額で見ると、最も高かったのは、宿泊費の9,170円で、最も低かったのは、交通費の387円だった。

また、各々の消費総額を合計し、川越にもたらされる消費額全体を試算したところ、約109億6400万円となった。平成25年度の結果(約101億5700万円)と比較すると、約7.9%の増加となった(25ページ、図26参照)。

各項目別で見ると、交通費は前年度に比べ約14.3%、宿泊費が約1.3%減少した。飲食費は約9.3%増、入館料・入場料は約12.4%増、お土産品購入費は約8.4%増加した(表6参照)。

(表 6) 平成 25 年度の消費項目別の観光客平均消費額

項目	消費活動率	平均消費額	消費活動人数	消費総額
交通費	23.3%	¥437	587,160	¥256,588,920
宿泊費	1.8%	¥9,698	45,360	¥439,901,280
飲食費	93.1%	¥1,623	2,346,120	¥3,807,752,760
入館料・入場料	58.1%	¥392	1,464,120	¥573,935,040
お土産品購入費	87.1%	¥2,314	2,194,920	¥5,079,044,880
合計				¥10,157,222,880

消費総額が増加した主な要因の一つとしては、平成 26 年の入込観光客数が過去最高の 657 万 9 千人を記録したこともあり、それに伴って消費総額が増加したと考えられる。消費総額については、平成 22 年度以降、年々増加している。

観光客一人あたりの平均消費額については、「日帰り観光客」、「宿泊観光客」、「観光客全体」に分けて算出した。（表 7）

また、宿泊観光客については、「宿泊費を支出する観光客」（ホテルや旅館に宿泊と推定）と「宿泊費を支出しない観光客」（家族や友人の家などに宿泊と推定）がいたため、両者を区別して算出した。

(表 7) 滞在形態別の観光客平均消費額

	人数	平均消費額
宿泊観光客（宿泊費支出あり）	102	¥16,346
宿泊観光客（宿泊費支出なし）	78	¥4,986
日帰り観光客	6184	¥3,955
全体	6364	¥4,166

「宿泊費支出あり」の宿泊観光客の平均消費額は 16,346 円、「宿泊費支出なし」の宿泊観光客は 4,986 円、日帰り観光客は 3,955 円だった。

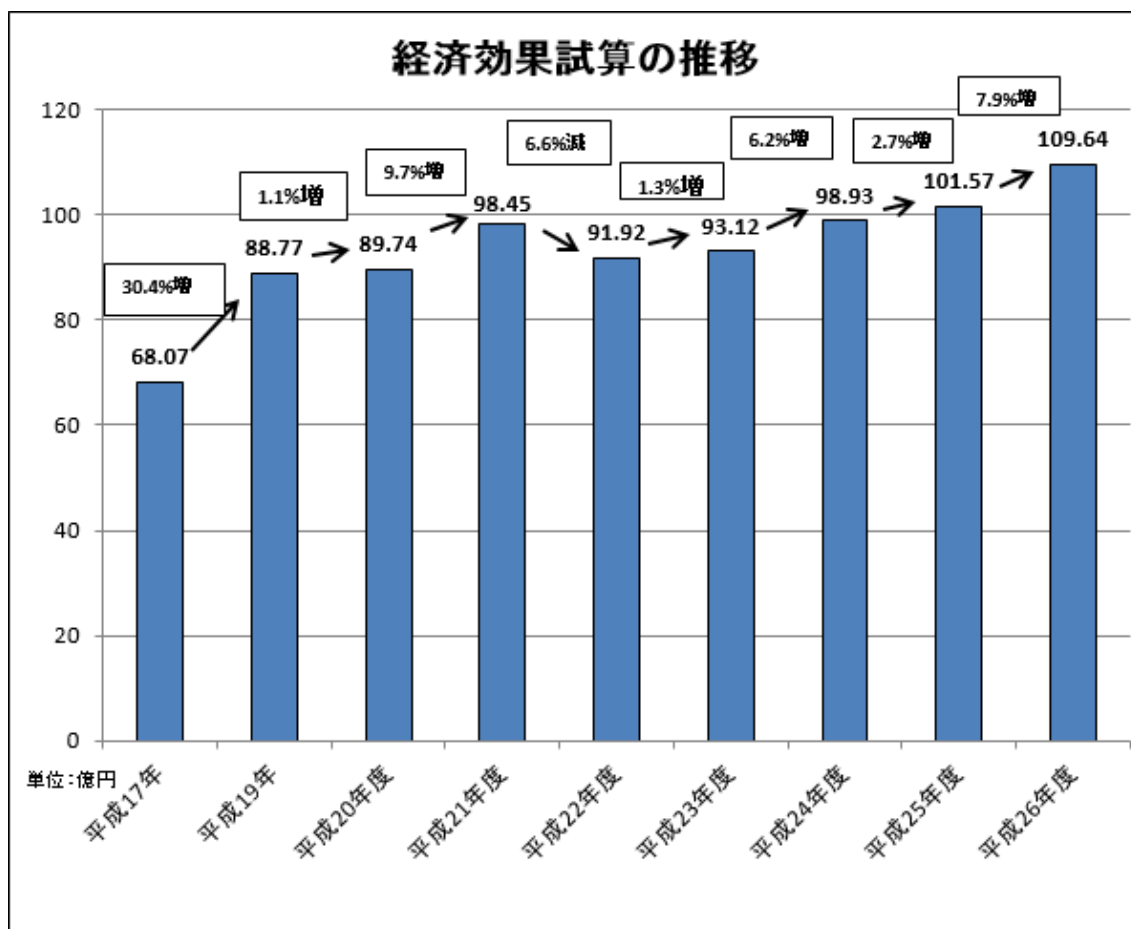
また、観光客全体では 4,166 円だった。4,032 円だった平成 25 年度と比較すると、134 円増加した。

次に、世代別（10～20 歳代、30～40 歳代、50 歳代以上、不明除く）で平均消費額を調べたところ、10～20 歳代の平均消費額は 3,398 円、30～40 歳代の平均消費額は 4,010 円、50 歳代以上の平均消費額は 4,404 円と、年代が上がるにつれ、平均消費額が増えていくことが分かった。（表 8）

(表 8) 世代別の観光客平均消費額

項 目	人数 (人)	平均消費額 (円)
10～20 歳代	793	3, 398
30～40 歳代	1, 799	4, 010
50 歳代以上	3, 761	4, 404

(図 26) 経済効果試算の推移



※平成 18 年については、観光アンケート調査を行っていない。

※数値の説明
棒グラフの上の数値
消費総額の合計

川越市観光アンケート調査報告書 平成26年度

平成27年5月

編集・発行 川越市産業観光部観光課

〒350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1

TEL 049-224-5940（直通） 049-224-8811（代表）

FAX 049-224-8712